

コース再編と プログラム制の導入について



副学部長
(教育・国際交流担当)
渡部 徹



図1. 1学科6コースから
1学科3コースへ

はじめに
農学部では、2010年度(平成22年度)から1学科制での教育を行っており、卒業後の進路を見据えた6つのコース(図1)のいずれかで学んだ卒業生を社会に送り出して参りました。食料、生命、環境科学を総合的に学ぶことができる1学科制は、地球規模での食料、環境、エネルギー問題のような複雑な課題を未来に向けて解決しうる人材を育成する教育システムとして、他大学からも参考してください。

その他の新しい試み

1年次に、「農学のための数理科目」を配置して、理系の大基礎生物学」「農学のための数理基礎」というサイエンススキルを育成に努めます。この基礎学力も含めて、一人ひとりが

農学部では、2010年度(平成22年度)から1学科制での教育を行っており、卒業後の進路を見据えた6つのコース(図1)のいずれかで学んだ卒業生を社会に送り出して参りました。食料、生命、環境科学を総合的に学ぶことができる1学科制は、地球規模での食料、環境、エネルギー問題のような複雑な課題を未来に向けて解決しうる人材を育成する教育システムとして、他大学からも参考してください。

にされるなど高い評価を受けています。また、学部一括で入試を行い、入学後1年間の学習を通じて進むべき専門分野を選択する方式も、本学部の特徴あるカリキュラムとして根付いてきたところで

す。これらの1学科制のメリットを活かしながら、本年4月に、6コースを3コースに再編しました(図1)。さらに、3年次以降のカリキュラムには、国際社会や地域社会で活躍できる「尖った人材」をコース横断で育成する国際展開プログラムと地域創生プログラムもあり、3年次進級時に3プログラムから1つを選択します。このように新しいカリ

ュラムでは「何を学ぶか」を選ぶコース制と「学んだことをどこで活かすか」を選ぶプログラム制を組み合わせることで、学生の希望や社会のニーズに細かく対応した教育

が可能となりました(図2)。ここでは、再編後の3つのコース、そして新たに導入されたプログラムについてご紹介します。

再編後の3つのコース
1年次には小白川キャンパスで、基盤教育科目や農学に関わる導入・基礎科目を学びます。これは從来と同様でコースを次の3つから選びます。

図2. 農学部に入学してから卒業まで

山形大学農学部に入学してから卒業まで



ど、広範囲な農学の領域を基礎から応用まで学びます。

(3)エコサイエンスコース

農林業の基盤となる自然環境や生態系のメカニズム、機能を理

解し、それらが産み出す恵みを享受しながら、将来に渡り持続

可能な形で管理、保全するための理論や技術を学びます。

(2)バイオサイエンスコース

安全な農畜産物を持続的かつ安定的に生産するための理論や技術を学びます。さら

に、限られた資源(物的資源、人的資源)を有効に利用す

るためのマネジメントについて

学びます。

(1)アグリサイエンスコース

安全な農畜産物を有効に利用す

るためのマネジメントについて

学びます。

3つの履修プログラム

2年次には鶴岡キャンパスに移行し、それぞれのコースでの課題解決に役立つ基幹的な科目(コア科目)を中心に行います。その上で、自分の将来を見据えながら、3年次以降に学ぶ履修プログラムを次の3つから選びます。

入場無料！ご飯無料！ 山形大学農場フェスティバルのご紹介



やまがた
ファーレル科学センター
工コ農業部門・技術専門職員
山形大学農場フェスティバル
実行委員会企画担当
佐久間拓也

「それでは、農場フェスティバル、スタートでーす！」という演習林の新井技術専門職員と司会補助の学生の息の合った掛け声で、2019年10月5日（土）今回8回目となる「山形大学農場フェスティバル・19（あなたもわたしも Shall we ライス!?）」が始まりました。

開始前から長蛇の列であった高坂農場の農産物を販売する農

場市ブースでは開始と同時に大忙しでした。今年の販売額は過去最高を記録しました。イベントの目玉の一つである「ご飯無料」はもちろん高坂農場で収穫したばかりの新米を使用しています。「おいしいご飯を片手に会場を楽しもう！」というコンセプトのもと、その新米に合うおかずなどを販売する飲食ブースが8店舗、農産加工品などを販売するブースが8店舗、農業機械格納庫などに軒を連ねました。

農場の空の下、みずみずしい新米ご飯とてんぶらや地鶏の串焼き、庄内豚スパイスカレーなどを想像するとワクワクしてきました。ステージは普段イネの苗を育てたり、実験や実習に使用しているガラス温室にバンドの機材を設置し、色鮮やかに装飾した「育苗ハウスステージ」と来場客とより近く広いスペースが取れる「青空ステージ」があります。小沢センター長のオープニングセレモニーを皮切りに、学生や地域で

活躍する方などによる音楽演奏、花笠踊り、ジャグリング、鶴岡市エコキャラミどりちゃんによるごみの分別学習、農場と演習林技術職員による農機SHOW！などのパフォーマンス計13ステージを練り広げました。毎年ご来場いただいている方から、「今年は音楽のレベルが高い」とお褒めの言葉や、「ステージを見てくれている人たちも例年よりも多かった」との意見を頂きました。ステージについても、山形大トルブースを今回初めて会場内に設けました。農学部学生が主体となり運営し、他学部の学生や地域のダンス仲間を巻き込んだブースです。繰り広げられるダンス対決も面白く、多くの観客で賑わいました。

「どこにいても何か楽しいことがある」と思ってもらえることが会場をデザインする上で考慮していました。

「ベースやステージ以外にも楽し

いためになるブース満載を目指しました。教職員で運営する農



7年目 農場見学ツアー



6年目 ヤギ触れ合い



5年目 雨でも元気！



8年目 名物司会



8年目 ポスター

当日大成功でしたよー！と言葉で言うだけでは目的の一つです。準備から報告までできるある「知つてもらう」には不十分で、限り質の高い発信を心がけています。イベントの顔であるボス

場フェス特別講演会や演習林ブースの薪割り体験。学生が運営する畜産研のヤギ触れ合い、ブース、栽培土壤研のイネ脱穀ワークショップ、機械研の未来的農機紹介。地域の方で運営する薪ボイラーで足湯ブースなどなど盛りだくさんです。「野菜を買いに来たのについ、長居してしまった」「ステージを観に行くつもりが途中で会つたゆるキャラたちが面白すぎて時間を忘れてしまった」などのお声を頂けると嬉しい気持ちになります。

なぜか天気に恵まれることの少ない農場フェス（8回開催中晴れたのは2年目の1度のみ）。今年も雨が降ったりやんだりとあいにくの空模様で、開催できなか企画もございました。地盤の悪い中駐車場整理を行つたスタッフの労力は大変なものがございました。しかしながら、雨の中1050人の方にご来場いただき無事に開催してきました。

このイベントを続けていたいがつかけとなつたのは2012年に開催された「山形大学農場新米ロツクフェスティバル」です。農場、演習林のスタッフと学生有志等で企画し、山形大学農学部として開催されています。組織は浦川企画担当、販売担当、会場担当、工科農業部門長を実行委員長とし、副委員長・運営・総括担当、JICAブース出展など）、地域で活躍されている方々（出店・企画ブースなど）の力をお借りして運営しています。

このイベントを続けていたいがつかけとなつたのは2012年に開催された「山形大学農場新米ロツクフェスティバル」です。農場、演習林のスタッフと学生有志等で企画し、山形大学農学部として開催されました。大好きな農場が地域の方々にあまり知られていない悔しさと、広大な牧草地で新米手に音楽を楽しむワクワク感に突き動かされ、死に物狂いで準備しました。今考えると恥ずかしいくらい経験不足で多方面に迷惑をお掛けしました。それでも予想をはるかに超える来場者数で需要の高さが伺えました。2年目より現在の「山形大学農場フェスティバル（+副題）」に改名し、組織も現在のように一新されました。回数を重ねるごとに反省、改善を繰り返し現在の形に至っています。メイク会場も牧草地から管理棟駐車場を経て、格納庫・管理棟周辺へと移っています。

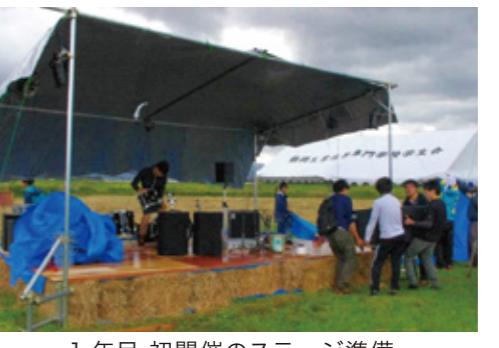
鶴岡周辺在住の縁ある卒生のみなさまには大変お世話になつております。鶴窓会のみなさまにおかれましては、来年以降も開催された際にはぜひご来場いただければ幸いです。何か良いアイディアなどございましたらご連絡ください。

そこで、鶴窓会事務局庶務であり名物司会である演習林の新井さんよりいつも締めの一言を頂きましょう。

「また来年お会いできること楽しみに！ありがとうございました」といいました！さようならー！」



2年目 唯一の快晴年！農場市行列



1年目 初開催のステージ準備



4年目 ゾーンイング体験



3年目 学生バンド